

地域キャンパス校・センター校だより

～地域キャンパス校・センター校の取組を発信する～

新しい高校づくり推進室

平成29年8月16日 発行

通算 第15号

地域キャンパス校・センター校連携研究協議会を開催

平成29年度地域キャンパス校・センター校連携研究協議会を、8月10日（木）に全道各地から地域キャンパス校・センター校の管理職等をはじめ、関係教育局の職員など52名の参加のもと開催しました。

本研究協議会は、地域キャンパス校の教育環境の維持充実を図るため、毎年開催しているものであり、今年度は、地域キャンパス校の教育環境の充実にに向けた講演や実践発表、研究協議を行いました。

参加者からは、「地域キャンパス校の教育環境の充実に向け、遠隔システムを活用して、管内はもとより、管外の学校と遠隔システムを使って交流したい。」「地域キャンパス校と連携を図るポイントがよくわかりました。」など、前向きな声が寄せられるなど、地域キャンパス校とセンター校の取組の充実に向け、一定の成果が得られた協議会となりました。

講演 「地域キャンパス校の教育環境の充実に向けて」



篠原准教授

北海道大学大学院教育学研究院の篠原岳司准教授が、「地域キャンパス校の教育環境の充実に向けて」と題して講演を行いました。

篠原准教授からは、「遠隔システムを活用できる場面は多くある。先行的に行っている学校の取組を参考にして、生徒の学習の幅の拡大や教員研修の充実を図ってほしい。」「次期学習指導要領を見据え、地域を教材化したプロジェクト学習など生徒が探究する教育活動の充実に向けてほしい。」など、地域キャンパス校の教育環境の充実に向けた重要なポイントについて分かりやすく説明いただきました。

実践発表

◆ 学校間連携の推進 平取高校

平取高校は、同じ日高管内の富川高校と取り組んでいる学校間連携について実践発表を行いました。

両校においては、教育課程の充実に向け、それぞれの高校に勤務する家庭科と音楽科の教員を相互に派遣しており、中でも、平取高校では、富川高校から派遣されている音楽科の教員が、大学受験で音楽を必要とする生徒に対し個別指導を行ったり、儀式的行事に向け校歌等の歌唱指導を行ったりするなど、教科指導の充実はもとより、様々な場面で学校間連携の趣旨を生かした教育活動に取り組んでいます。

◆ 地域との連携の充実 虻田高校

虻田高校は、国土交通省北海道運輸局室蘭運輸支局や地元企業と連携して取り組んでいる洞爺湖遊覧船観光ガイド育成事業について実践発表を行いました。

虻田高校では、商業の学校設定科目「地域ビジネス」において、生徒が地域の自然や歴史、文化などについて理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を高めることをねらいに取り組んでおり、その学習の成果として、洞爺湖を訪れた道外の高校生を対象に遊覧船内で観光ガイドを行っています。

◆ 学校の魅力の発信 美深高校

美深高校は、学校の魅力発信の取組として、学校説明会において生徒が説明していることや中学生と座談会を行っていること、また、学校祭で行っている合唱を町民が視聴しやすいよう公民館で行っていることのほか、中学校訪問を町教育委員会と連携して行っていることなどについて実践発表を行いました。

美深高校は、こうした魅力発信の取組に加え、町からの支援などにより、今年度は平成25年度以降最も多く生徒が入学しており、今後も、「生徒が最大の広報マンである」との認識のもと、生徒一人一人の成長に向け、教育活動の一層の充実を図り、魅力ある学校づくりを進めることとしています。

研究協議における主な意見等

◆ 遠隔システムの積極的な活用

- ・遠隔授業を定期的・継続的に実施するなどして、遠隔授業のスキルを高める必要がある。
- ・遠隔システムを活用することで、初任段階研修の効果を高めることができる。

◆ 学校間連携の推進

- ・進学講習や進路面談の実施など、地域キャンパス校のニーズに応じた取組を推進することが大切である。
- ・学校間の連携を深めるためには、遠隔システムを積極的に活用し、生徒や教職員が交流する機会を増やす必要がある。

◆ 地域との連携の充実

- ・教育活動の一層の充実に向け、地域の教育資源や人材を活用することが大切である。
- ・地域と連携した教育活動を推進するためには、地域と目的を共有することが大切である。

◆ 学校の魅力の発信

- ・学校や地域の強みを生かした特色ある教育活動を推進することが大切である。
- ・生徒の声を生かすなど、地域の方々や中学生にわかりやすい情報発信に努める必要がある。